

～ マイ水中カメラと My 図鑑作りの勧め ～

福井市 夏梅 晃一

私が水中カメラを初めて手にとって見たのは、1984年5月に沖縄の黒島で開催された、(財)海中公園センター等が主催した海中観察会に参加した時でした。ニコンの真っ黒なニコノスⅢ型に触れ、なかなかピントが合わないという話を聞いたのですが、東京に戻って早速新宿ヨドバシカメラに出かけ、ピントが合わないことを忘れてグリーンのコノスV型を購入したのが、初のマイ水中カメラです。このカメラは、ハウジングに入れずに、そのまま水中で使える便利なカメラですが、フィルムカメラで、ピントは目測してダイヤルで距離を設定するものでした。陸上でも被写体との距離の目測は難しいのに、海中で水中メガネを通して見る被写体との距離は、陸上より近く見えるので、更に困難です。高価な広角レンズが買えれば、被写界深度が深くピント合わせは楽になりますが、東京で就職して2年目、6畳一間のアパート暮らしの私には、標準レンズ付きのカメラ本体を買うのが精一杯で・・・ストロボも高価でなかなか買えませんでした。



ニコノスV型

というわけで、近年デジタルカメラが普及するまでは、35mm標準レンズ+ニコノスV型で撮影していたので、帰福した当時、海中撮影は福井の浅海の生きものたちを調べる補助器材と割り切っていました。

ところがデジタルカメラが登場して、非常に安い器材で、海中でのオートフォーカス撮影が可能となりました。私でも、ピントが合った水中写真を撮影できる確率が急上昇！

また、昨年、自作できる写真の製本キットが販売されていることを知り、いよいよMy図鑑を試作してみました。まだまだ未熟な内容ですが、勢いで、福井の浅海の「魚たち(温帯魚・スズキ目)」、「魚たち(温帯魚・スズキ目以外)」、「魚たち(暖海魚と漂着生物)」、「ウミウシたち」、「イソガニたち」、「サンゴの仲間たち」の6冊をとりあえず作成。今後ぼちぼち追加作成する予定です。

黒田明穂さんは、今年3月の「自然への誘い展」で、コンパクトな「野菜の花図鑑」を展示されていました。この図鑑は、カメラ屋さん写真データを送ると印刷製本してくれるサービスで作成したものだそうです。便利な世の中ですね！

My図鑑の写真は、すべて福井で自分が撮影したものですから、撮影時の生きものたちの生息状況がよくわかっています。多くの図鑑のように、種類毎に1枚の写真ではなく、複数の状況の異なる写

真を掲載して、撮影時の状況等、自分が見たこと感じたことを素直に書き添えることにしました。

来年2月の「自然への誘い展」に向けて、皆さんも作ってみませんか？

